

計画の位置づけ

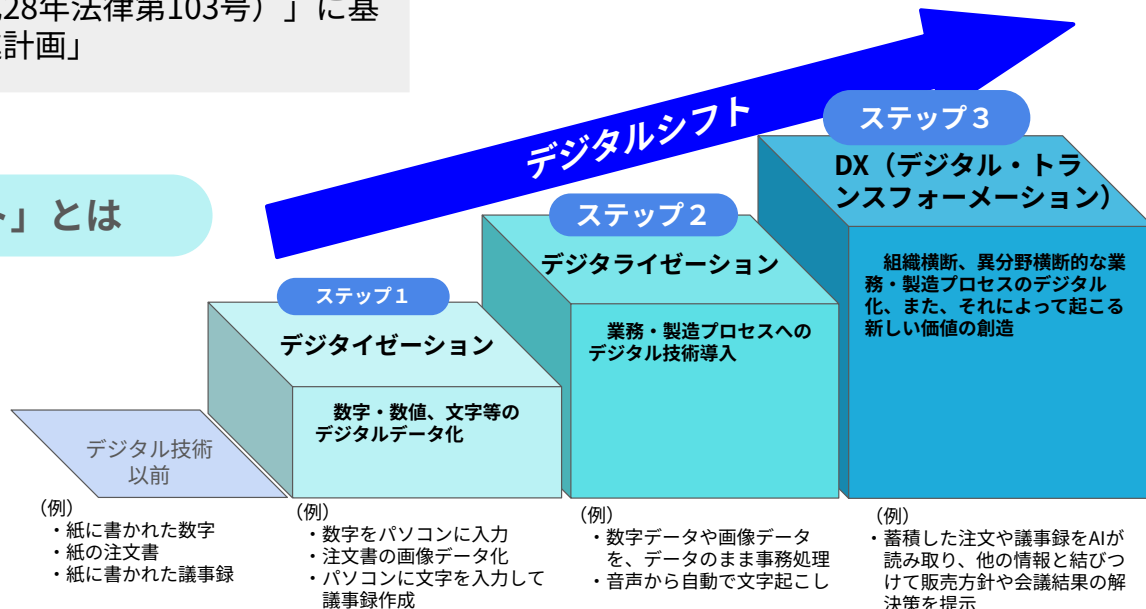
- 「秋田県総合計画 ～秋田再興への第一歩～」の個別計画として、秋田県が目指すデジタル社会の実現に向け、全庁的な取組の指針とする計画
- 「官民データ活用推進基本法（平成28年法律第103号）」に基づく「都道府県官民データ活用推進計画」

推進期間

2026年度～2029年度
(令和8年度～令和11年度)

本計画における「デジタルシフト」とは

- デジタル技術が使われ、社会に影響を与えていく過程は一般的に3つの段階（ステップ）です。本計画では、DXを実現していくそれら過程の全体を「デジタルシフト」とします。



新秋田県DX推進計画の概要

策定の趣旨

人口減少社会において、様々な地域課題の解決を図りつつ、社会経済の変化に対応しながら本県が力強く歩んでいくために、デジタル技術の活用による社会の変革や新たな価値の創出を図るDX推進に向けた計画を新たに策定する。

現状と課題

【秋田県の現状】

- 全国のすう勢を上回る人口減少と少子高齢化
- 県民総生産の伸び悩み
- 労働力が減少し、人手が不足
- 人口密度が希薄な地域の拡がり
- 自然災害が激甚化・頻発化
- 有害鳥獣が生活圏に日常的に出没

【デジタル社会をめぐる最近の情勢】

- 生成AIやAIエージェントなど新技術の浸透と電力需要の更なる高まり
- 全国的に官民を問わず、デジタル人材が不足
- 自治体システムの標準化が進展
- 将来のデータ連携社会を見据えたオープンデータ化の方向

【本県のDX推進の必要性】

- 暮らし：人口が減少する中であっても、様々な生活サービスの利便性や持続性の向上が必要
- 産業：デジタル社会の到来に対応して、生産性の向上や業務の効率化、新ビジネスの創出、本県の将来を支える産業構成への転換など、競争力を強化する必要
- 行政：県や市町村の職員が減少する中であっても、行政サービスの維持・向上ニーズに対応していく必要

計画の目標

一人ひとりのニーズが満たされ、それぞれが「豊かさ」を感じられる社会の実現

取組の分野の方向性



持続する“地域の暮らし”を支える

施策数：13
取組数：32

生活に係る各種のサービス提供を、デジタル技術を活用して賢く最適化し、生活の質の維持・向上を図ります。

- 防災・減災力の強化
 - ・河川情報通知サービスの受信者数
- 野生鳥獣による被害防止対策
 - ・ツキノワグマによる人身被害者数



“産業の伸びしろ”を生み出す

施策数：9
取組数：20

AIやデータの力で人手不足の克服とビジネスの高付加価値化を行い、地域産業の生産性と競争力向上を図ります。

- DXを支える情報関連産業の誘致・集積
 - ・誘致認定件数



“未来の基盤”をつくる

施策数：12
取組数：29

デジタル人材の育成や教育・行政のDX、通信インフラ整備を推進するとともに、多様な主体が連携する機会の創出を目指します。

- デジタル時代に対応した高校教育
 - ・「情報I」で求められる資質・能力が身に付いている生徒の割合

分野 持続する“地域の暮らし”を支える

**所管
部局**

総務部、建設部

施策 暮らし-9 **防災・減災力の強化**

目指す状態

各種情報システム等の導入・運用により、防災情報の伝達、住家被害認定調査等が迅速化・効率化しています。

また、プッシュ型通知等により大雨や河川水位などの防災情報を自ら入手し、災害を「自分ごと」として捉える人が増え、防災意識が向上しています。

施策の対象者

県民全体

施策の実現のために連携が必要な主な関係者

県と災害協定を締結した事業者

＜提供されている河川情報＞

秋田県から県民のみなさまへお知らせ ～河川情報(河川水位や降雨量)の提供サービス～

秋田県内の河川情報をメール又はLINEで配信しています！！



施策指標	実績値 (2024)	目標値 (2029)
デジタル技術を活用した住家被害認定調査研修の受講者数〔累積〕(人)	0	240
河川情報通知サービスの受信者数(人)	3,173	6,280

主な取組

- ①次期総合防災情報システムの整備と円滑な運用支援
- ②秋田県防災ポータルサイトで提供する災害関連情報等の充実
- ③デジタル技術を活用した住家被害認定調査研修の実施
- ④河川情報提供体制の充実

分野

持続する“地域の暮らし”を支える

所管
部局

生活環境部

施策

くらし-11

野生鳥獣による被害防止対策

目指す状態

ツキノワグマほか、野生鳥獣の被害を未然に防ぐため、出没状況の把握や防除策、住民への注意喚起、普及啓発等が総合的に展開されています。

施策の対象者

県民全体

施策の実現のために連携が必要な主な関係者

ICT企業

＜クマダスの紹介＞

主な取組

- ① ツキノワグマ被害防止のための情報提供にデジタルツールを活用
- ② ドローンを活用した効果的なクマの探索等
- ③ 人とクマの棲み分けに向けた出没抑制対策の推進

施策指標	実績値 (2024)	目標値 (2029)
人の生活圏におけるツキノワグマによる人身被害者数 (人)	5	0

【概要】 県内でのツキノワグマの出没増加に対応し、県民の安全確保と被害防止を目的として、ドローン等を活用した新たなクマ対策技術の実証を行う。（採択予定件数：3件）

危険を伴う捕獲作業のサポート



- ① 上空からクマの居場所を確認
- ② 市町村職員がタブレット等で猟友会をサポート
- ③ 追い払いや捕獲を実施

提案のポイント

高齢な猟友会の会員をサポートし、効率性と安全性を向上

管理強化ゾーンでの監視・追い払い



- ① ゾーン内を監視（市町村と共有）
- ② 自動判別機能で識別、リアルタイム共有
- ③ 音等によって山間部へ追い払い

提案のポイント

ドローンポートでの自動充電により継続的な監視が可能

【実施スケジュール】

公募開始
5/15

参加資格提出
5/22

企画書提出
6/1

企画審査
6月上旬

委託候補者・県市町村等と連携に向けた協議
6月上旬～

契約
6月下旬

※画像は Gemini で作成

分野

“産業の伸びしろ”を生み出す

所管
部局

産業労働部

施策

産業-4

DXを支える情報関連産業の誘致・集積

目指す状態

県内にソフトウェア業やデータセンター業などの情報関連サービス企業やコンテンツ関連企業の立地が進み、これら魅力ある職場に県内の卒業生が就職するほか、高度デジタル人材の集積が進み地域経済が活性化するとともに、県民がDXを身近に感じています。

〈情報関連企業〉



施策の対象者

県内外の情報関連サービス・コンテンツ企業

施策の実現のために連携が必要な主な関係者

高等教育機関

主な取組

- ①本県の魅力をアピールした情報関連サービス企業等へのアプローチ
 - ・デジタル人材を輩出する県内大学等のPR
 - ・県が行う、中高生から大学生まで一貫したデジタル人材育成プログラム【AKITA DeX人材育成事業】

施策指標	実績値 (2024)	目標値 (2029)
誘致認定件数〔累積〕 (社)	16	60

【デジタル時代に対応した高校教育】 <「情報Ⅰ」で求められる資質・能力が身に付いている生徒の割合>

分野

“未来の基盤”をつくる

所管
部局

教育庁

施策

未来基盤-4

デジタル時代に対応した高校教育

目指す状態

社会の各分野で活躍するデジタル人材を育成するため、高度専門人材を活用した探究的な学びを推進するとともに、企業や大学等と連携し、産業ニーズを反映した実践的・体験的な専門教育を行っています。これにより、生徒に新たな価値を創造する資質・能力を育成しています。

施策の対象者

県立高校の生徒及び教員

施策の実現のために連携が必要な主な関係者

高等教育機関、事業者

<高校の授業のイメージ>



施策指標

実績値 (2024)

目標値 (2029)

「情報Ⅰ」で求められる資質・能力が身に付いている生徒の割合 (%)

—

80.0

主な取組

- ①最新のICT教材を活用したデジタル人材の育成
- ②県内大学及び企業の専門人材を活用した最先端のデジタル技術に関する講義・実習の実施
- ③専門高校の教員等を対象とした最先端技術等に関する研修会の実施

最新のICT教材やIT専門人材を活用した教育を推進し、これからのデジタル社会で活躍するために必要となる論理的思考力、提案力、課題解決能力等の資質・能力を身に付けた人材を育成する。

<普通高校における人材育成>

プロジェクト2

普通高校におけるデジタル人材の育成（8,501千円）

◆デジタル探究コースにおける探究的な学習活動の充実

プログラミングやAI等のデジタル技術を活用した探究活動の推進

3Dプリンタやドローン等のデジタル機器や専門人材の活用

◆最先端のデジタル技術を活用した学習活動の推進

生徒による成果発表会、交流会等を実施し学習活動の実践・検証を推進

◆デジタル・インターンシップの充実

県内外のIT関連企業等の協力による就労体験の実施（参集・オンライン）

<全ての県立高校における人材育成>

プロジェクト1

県立高校におけるプログラミング実習教材を活用した人材育成（23,514千円）

◆生徒の情報活用能力の向上

プログラミングやデータサイエンスを体験しながら学習する「情報Ⅰ」オンライン教材を全ての県立高校の生徒へ配付

「マイクロビット」及び拡張機器と1人1台端末によるプログラミング実習



「秋田県高校生マイクロビットコンテスト」の開催による学習成果を共有

「秋田県高等学校プログラミングテスト（1級～3級）」を実施し、プログラミングを中心とした情報Ⅰの学習状況を把握

◆教員の情報活用指導力の向上

Google for Educationパートナー自治体プログラムへの参画

生成AI活用や情報デザインに係る研修の実施

「情報Ⅰ」オンライン教材の実践的な活用方法に関する研修、プログラミング研修、データサイエンス研修の実施

<専門高校における人材育成>

プロジェクト3

専門高校における成長産業・デジタル人材の育成（2,639千円）

◆専門人材・地域資源を活用した最先端技術の学びの推進

各専門分野における最先端のデジタル技術に関する講義・実習

【専門人材を活用した特別講義】
県内大学、県技術センター、企業等
【県内企業における技術研修】
【指導力向上教員研修会】
高度加工技術、最先端農業技術など



◆実習環境等のデジタルネットワーク化、学科・学校間連携の推進

実習施設等における1人1台端末の活用の充実

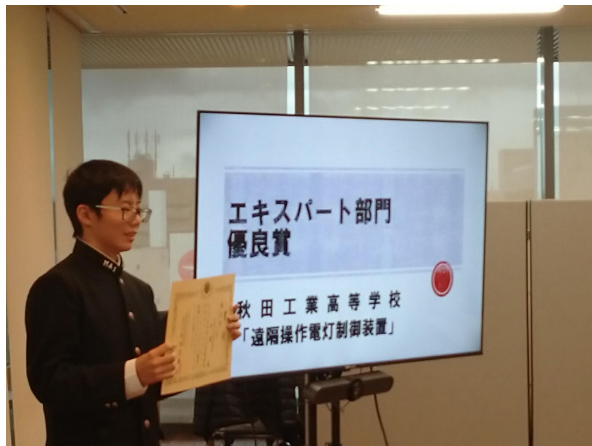


専門分野の強みを生かした協働的な学びの推進

【農業】スマート農業、リモートセンシングシステム
【工業】IoT、ロボット制御
【水産】スマート水産業
【商業】デジタル×ビジネス
【福祉】介護サービスのデジタル化

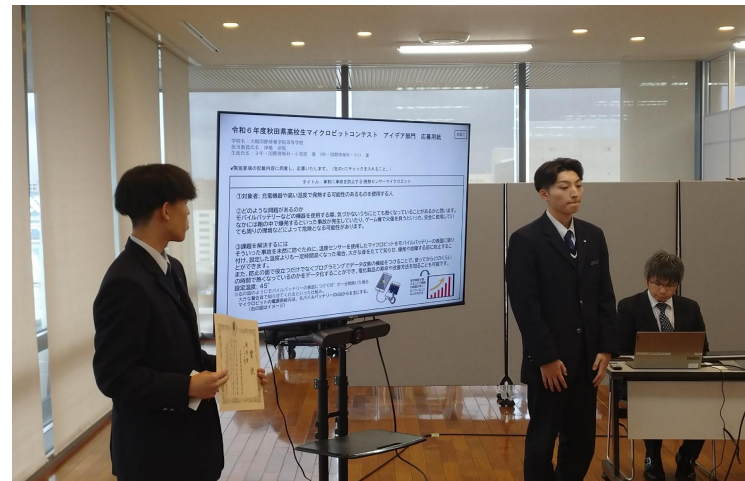
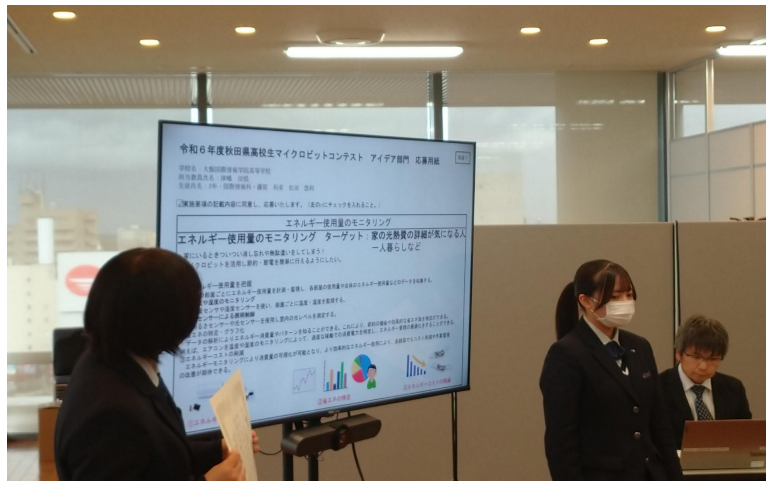


マイクロビットコンテスト 表彰式



表彰された生徒

作品の発表の様子



デジタル探究コース 授業風景

ドローン実習の様子



大学教授によるデータサイエンス
に関する遠隔授業